

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	遠野地域福祉事業所こむこむはうす			
○保護者評価実施期間	令和8年2月3日 ～ 令和8年2月13日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	令和8年1月28日 ～ 令和7年2月13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の作成・共有が適切に行われている。	子どもの特性理解に基づく支援が安定して行えるよう、研修の機会を多く設けている。個別支援計画の作成に多くのスタッフが関わっている。	計画の共有をより確実にするため、全職員が短時間で確認できる仕組みを整える。
2	清潔で安心して過ごせる環境整備が継続されている。	設備や環境の構造化をすすめ、子どもが安心して活動できる環境をめざしている。	日々の整理整頓や掃除の中で、改善点の早期発見につなげる。月1回の安全チェックを今後も機能させていく。
3	保護者との連携・説明が丁寧で、共通理解が形成されている。	支援内容や運営規程の説明を丁寧に行っている。事業所の通信の他に、1か月の支援を振り返るミニ通信を発行し、支援内容の見える化を行っている。日頃から子どもの状況を共有し、保護者の安心感につながるようにしている。	保護者会へ参加できない家庭へも、後日内容をまとめて配付する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援開始前後の打ち合わせが徹底されていない。	勤務時間が日々変わり、情報共有のタイミングにばらつきがみられる。	短時間の打ち合わせを定着させ、最低限の共有を確保する。当日の役割・注意点などをホワイトボード等で共有する。行事の内容については、事前に共有する機会を設ける。
2	アセスメントの質向上、職員理解の促進。	「フォーマルなアセスメントが何かわからない」との意見があり、標準化ツールの活用が進んでいない。	R7年度途中からアセスメントの方法を変更している。非常勤を含めた全職員に説明の機会を設ける。
3	家族支援・きょうだい支援の取り組みがみえにくい。	保護者から「きょうだいへの支援がなされているかわからない」との意見があり、実施内容が十分に伝わっていない。	既存行事に家族やきょうだい向けの活動を設け、事業所の通信で取り組み内容を発信する。